

## 資料紹介

# 神奈川県三浦市矢作遺跡出土の器台形土器

野村 高 広

要旨 昭和2年の東亜考古学会による神奈川県三浦市矢作遺跡の発掘で、高杯状器台を含む古墳前期の土師器等が出土している。検討の結果、関東地方の高杯状器台には東海系だけでなく北陸系の影響もみられることが明らかになった。

## 1. はじめに

本稿で紹介する土器は、戦前に発掘された神奈川県矢作遺跡から出土したものであり、現在は東京大学文学部に所蔵されている。矢作遺跡は昭和2年に東亜考古学会によって発掘され、その際出土した遺物は現在東京大学文学部に保管されている（藤江 1977）。そのなかに高杯形土器と類似した概観を呈する器台形土器が含まれる。ここでは器台形土器を中心に矢作遺跡から出土した土器について図版とともに紹介し、問題となる器台形土器について若干の考察を加える。

## 2. 矢作遺跡出土の器台形土器

5・6は杯部中央に貫通孔を有するため、「高杯状器台」と呼ばれる一群の土器である（図1）。5の器台は、受部の口径18.5cm、全体の残存高11.0cmを測る。受部は外面を横方向のミガキ、内面を横方向のナデで調整する。脚部の外面は縦方向のミガキで調整する。口唇部付近にはキザミが施される。また、残存する台部の下端に屈曲がみられることから有段の裾部をもっていたものと考えられる。受部の外面に「神奈川県三浦郡初聲村矢作」と墨書されている。

6の器台は接合部のみの資料であり、残存高5.8cmを測る。外面をミガキ、内面をナデで調整する。接合部に縄状工具で押しつけられたような痕が残っている

## 3. 他の出土遺物

東亜考古学会によって発掘された神奈川県矢作遺跡からは、古墳時代の土師器を中心とする遺物が出土しており、須恵器も散見される。その多くが破片資料であり、完形の遺物はない。全体の器形が窺える資料から、器台以外に複合口縁壺・瓢壺・台付甕・高杯などの器種が確認される。ここでは時期を考える上で指標となる資料をとりあげ、その紹介を行う（図1）。

1は複合口縁壺の口縁部、2は瓢壺の口縁部、3は壺形土器の底部である。1の口唇部には、刺突痕を有した円形浮文を貼り付ける。2は東海系の土器で、廻間Ⅱ式のものと考えられる。

4は台付甕の台部であり、ハケメによる調整が内外面に施される。また接合部の外面には縄状工

具が押しつけられた痕がみられる。

7・8は高杯形土器であり、3方向に穿った円孔を脚部にもつ点で共通する。しかし、8の高杯は外面をヘラミガキするのに対して、7の高杯は内外面ともにハケメによる調整がみられる。また、杯部との接合方法にも違いが見受けられる。

矢作遺跡出土土器には弥生土器の特徴を残す在地系の壺形土器や古墳中期の特徴を示す須恵器も含まれているが、全体としては古墳時代初頭から前葉にかけての様相を示す土器が主体を占めている。

#### 4. 矢作遺跡出土の器台形土器について

矢作遺跡出土の器台形土器は一見すると高杯形土器と外形が似ているが、中央貫通孔をもつため従来の高杯形土器と同じ用途に用いられたとは考えにくい。やはり器台形土器の一種とみなすべきものである。このような器台形土器は古墳時代前期の東日本に広くみられ、戦前から注目されてきた高杯状器台の一種と考えられる。

高杯状器台の研究は、岩崎卓也や玉口時雄の研究を嚆矢としてこれまで幾人かの研究者によって行われてきた（岩崎 1971；玉口 1971）。しかし、高杯状器台の出土例が集中する関東地方においても研究が進捗しているとは言えず、装飾器台および装飾器台に起源をもつ結合器台の研究において傍系的な資料として扱われるにとどまっているのが現状である。

神奈川県内で類例をあげると、横須賀市の小荷谷遺跡や長井内原遺跡の出土例が数えられる（横須賀市 2010）。東日本全体でみれば、弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての北陸地方から東海地方に類例を求めることができる。さらに古く遡るならば、弥生後期の瀬戸内海沿岸地域から伊勢湾沿岸地域にかけて広く盛行する器台形土器に起源を求められよう。

たしかに、弥生後期の近畿・東海を中心に盛行した器台形土器が関東地方の高杯状器台の成立に影響を与えていることは否めない。しかし、有段の台部をもつなど北陸地方の器台形土器と共通する点も指摘され、近畿・東海の影響だけで成立したものとは考えにくい。したがって、高杯状器台の成立する背景には、古墳出現期における北陸・東海・関東といった東日本各地における地域間交流を想定すべきであろう。

#### 参考文献

- 藤江 稔 1977 「駒井和愛博士年譜」『琅玕 駒井和愛博士随筆集』駒井和愛博士記念会  
岩崎卓也 1971 「特集 シンポジウム五領式土器について」『台地研究』No. 19  
玉口時雄 1971 「古式土師器小考」『東洋大学紀要 文学部篇』第25集  
横須賀市 2010 『新横須賀市史 別編 考古』横須賀市

神奈川県三浦市矢作遺跡出土の器台形土器

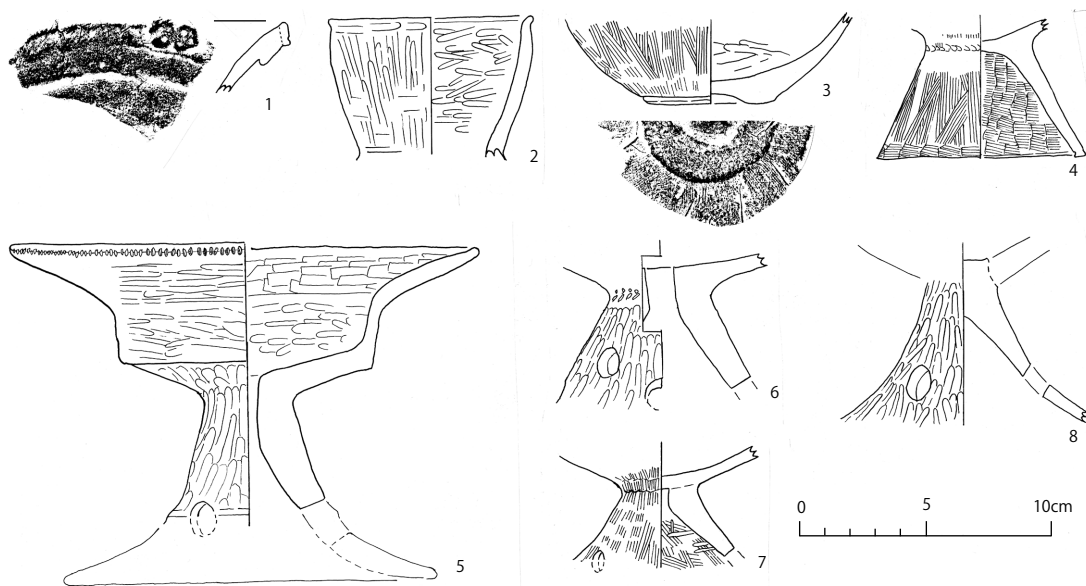


図1 矢作遺跡出土土器 (S=1/3) (筆者作成)

表1 矢作遺跡出土土器観察表(筆者作成)

番号	器種・部位	法量	形態・成形・技法の特徴	残存度・胎土・色調	備考
1	壺 口縁部	口径 — 底径 — 器高(4.0)	外面、横位ナデ。内面、横位ナデ。	残存度: 破片 胎土: 密、雲母少量、粗～細砂粒多量 色調: 褐色	口唇部に円形浮文。内面赤彩の可能性あり
2	瓢壺 口縁部	口径(8.2) 底径 — 器高(6.0)	外面、縦位ミガキ一部横位ナデ、口唇部付近は横位ミガキ。内面、横位ミガキ。	残存度: 口縁部半周 胎土: やや密、雲母・細砂粒微量 色調: 褐色	
3	壺 底部	口径 — 底径 5.0 器高(3.4)	外面、ハケメ。内面、ナデ。	残存度: 底部全周 胎土: 密、雲母・細砂粒少量 色調: 褐色	
4	台付甕 台部	口径 — 底径 8.2 器高(5.4)	外面、縦位ハケメ。裾部付近は斜位ハケメ。接合部付近に縄状工具の圧痕。内面、横位ハケメ。	残存度: 底部全周 胎土: 密、粗砂粒少量 色調: 褐色	
5	器台 受部～脚部	口径 18.6 底径 8.2 器高(11.0)	外面、受部は横位ミガキ。脚部は縦位ミガキ。内面、受部横位ナデ。	残存度: 4/5 胎土: 密、細砂粒少量 色調: 茶褐色	脚部に透孔を3方向に穿つ。裾部欠損。
6	器台 接合部	口径 — 底径 — 器高(5.8)	外面、ミガキ。接合部付近に縄状工具の圧痕。内面、ナデ。	残存度: 接合部1/3 胎土: 密、雲母微量 色調: 赤褐色	脚部に透孔を4方向ずつ2段に配列する。
7	高杯 杯部～脚部	口径 — 底径 — 器高(4.7)	外面、縦位ハケメ。内面、ハケメ後ヘラナデ。	残存度: 脚部1/2 胎土: 密、雲母・細砂粒少量 色調: 赤褐色	脚部に透孔を3方向に穿つ。裾部欠損。
8	高杯 脚部	口径 — 底径 — 器高(5.9)	外面、縦位ミガキ。内面、ナデ。	残存度: 脚部1/3 胎土: 雲母少量 色調: 暗褐色	脚部に透孔を3方向に穿つ。裾部欠損。